



第 12 回小児がん研修会のお知らせ

教育委員会では、**8月29日（土）に小児がん看護研修会を開催**いたします。今回は、「子どもの治療への参加～意思決定を支える看護～」をテーマに、子どもの意思決定をどのように尊重しながら子どもの主体性を支えていくかについて、日頃の実践場面で経験していることや迷っていること、などを共有し、子どもへの向き合い方へのヒントを得られる機会になればと考えております。**申し込み締め切りは、8月14日**です。ぜひたくさんの方々のご参加を、そして意見交換できることを楽しみにしております。

詳しいプログラムは同封したチラシをご参照ください。

2015 日本小児がん看護学会の組織・体制 (敬称略、五十音順 網掛け : 新任)

理事長	内田雅代
副理事長	石川福江 上別府圭子
理事	石川福江 井上玲子 内田雅代 小川純子 小原美江 上別府圭子 歯持瞳 塩飽仁 竹之内直子 田村恵美
	富岡晶子 野中淳子 平田美佳 前田留美
監事	小倉美智子 藤原千恵子 丸光恵 森美智子

《2015年度委員会等組織体制》 ◎印：委員長/事務局長 将来計画委員会	◎内田雅代 石川福江 井上玲子 上別府圭子 塩飽仁 田村恵美 野中淳子 前田留美
教育委員会	◎竹之内直子 小川純子 歯持瞳 伊藤好美
編集委員会	◎上別府圭子 前田留美 岩崎美和 小林京子 佐藤伊織 東樹京子 古谷佳由里
国際交流委員会	◎小川純子 平田美佳 山下早苗
ケア検討委員会	◎小原美江 竹之内直子 平田美佳
学術検討委員会	◎上別府圭子 内田雅代 小原美江
広報委員会	◎塩飽仁 井上玲子 小川純子 田村恵美 前田留美

会計	石川福江 富岡晶子
庶務	野中淳子
事務局	◎岡澄子 米山雅子
合同学会プログラム委員	石川福江 内田雅代 小川純子 小原美江

小児がん看護学会教育委員会

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、4月～翌年3月となっております。平成27年度の振込みがお済でない方は、お早目にお願いいたします。

[会費振込み先]

郵便振替口座: 0059-9-79689
名称: 特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会
〔事務局〕
神奈川県立保健福祉学 看護学科 小児看護学
〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町 1-10-1

学会のメーリングリストが再始動しました

このたび学会の独自メーリングリストを再構築し、リニューアル再始動いたしました。今後、様々な情報をメールでいち早くお届けいたしますので、会員の皆様には、ぜひ登録をお願いいたします。登録は、学会のホームページから申請をお願いします。

なお、これまで登録されていた方も、再度登録の申請が必要です。

http://www.jspon.com/cgi/ml_reg/postmail.html

小児がん看護学会誌編集委員会より

2月末までに投稿されたものはその年の9月に掲載予定です。それ以降に投稿されたものは翌年に掲載予定となります。但し、年間を通じて投稿を受け付けております。学会等でご発表された内容を是非、当学会誌に投稿され、後に続く人のために残して頂きたく存じます。多くの方のご投稿をお待ち申し上げます。日本小児看護学会誌投稿規定は(平成26年度1月1日施行)はHPでご覧いただけます。 <http://jspon.sakura.ne.jp>

ニュースレター担当

淑徳大学看護栄養学部 小川純子
東海大学健康科学部 井上玲子
筑波大学付属病院看護部 田村恵美

[連絡先]
〒260-8703 千葉市中央区仁戸名町673
E-mail: junogawa@soc.shukutoku.ac.jp
(小川)



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.21



日本小児がん研究会からスタートし、日本小児がん看護学会、NPO 法人日本小児がん看護学会、と少しずつ成長してきた本学会は、今年で発足13年目となりました。

2013年2月に「がん対策推進基本計画」により全国に15の「小児がん拠点病院」が指定されてから2年が経過しました。それぞれの地域で「小児がん拠点病院」を中心に医療のネットワークが構築されつつあるのではないかでしょうか。看護師は、医師や他の専門職と共に、子ども達が慣れ親しんだ地域に留まりながら必要な医療が受けられる様にサポートすることが求められています。今年の学会のテーマは、「子どもたちの生きる場を繋げる病院・学校・地域の連携」です。研修会や学会の場を利用し、他の施設の看護師・専門職と情報交換する機会になると良いと思います。

今回のニュースレターでは、第13回学術集会のお知らせ、第12回学術集会の報告と共に、今年度の理事の体制などについてお知らせさせていただきます。また、8月の研修会のちらしと振り込み用紙、11月の学術集会のちらしも同封していますので、合わせてご確認ください。

第13回学術集会の演題登録期間が、6月29日（月）正午までに延長されています。未だ間に合いますので、多くの方の登録をお待ちしております。



第13回日本小児がん看護学会

開催期間 2015年11月27日（金）～11月29日（日）

会 場 甲府富士屋ホテル、常磐ホテル

* プログラムの詳細は、追ってホームページに掲載します。

* <http://www2.convention.co.jp/jspho2015>

第13回日本小児がん看護学会学術集会を、第57回日本小児血液・がん学会学術集会、第20回公益法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに、山梨の甲府で開催させていただくことになりました。

小児がん治療は地方都市の基幹病院においても拠点病院と同様の治療と共に成績も良好な時代になりました。地域で生まれ育った子どもがその地域で高度医療

が受けられることは、子どもがいつでも親に会える環境を保障でき、親の心身や経済的負担を軽減することに貢献していると言えます。一方で、地方都市では人口に比例して患者数が減少することは予測でき、医療・看護の質の維持・向上を図るには背反する問題を抱えるとも考えられます。

この度の山梨での開催は、少子化時代の地方都市における「小児がん対策」に歩を進める契機となることを期待しているところです。

特別講演として、内田伸子先生（御茶ノ水女子大学名誉教授）に「子どもの創造的想像力を育む大人の役割～長期入院児の心理と支援をめぐって～」を講演していただきます。また教育講演では、「赤鼻のセンセイ」として話題の副島賢和先生（昭和大学大学院保健医学研究科准教授）に復学支援に関する講演をお願いしています。さらに、小児がん学会との合同シンポジウムでは「小児がんの子どもの治療におけるプリパレーションとアセント・ICにおける多職種連携」をテーマに取り上げます。

看護シンポジウムとしては「小児がんの子どもの地域・成人移行に向けた支援 一生きる力を育むエンパワメントー」について臨床での実践や研究的視点から討論いただく予定です。また今回は看護ワークショップとして、「がん化学療法を受ける子どもの皮膚障害への看護」でスキンケアの実際と一緒に学べるスタイルで行いたいと考えています。さらに好評の学術交流セミナーでは、「復学に関する研究をレビューして実践力を高めよう！一論文から実践のヒントを得て臨床課題に向き合うー」を企画していただきます。

演題発表では、今までと同様に小児がん看護に関する多くの実践報告や研究成果のご発表を期待しているところです。発表者と参加者との活発な意見交換により交流を深め、地域格差のない看護が展開できるよう連携を図ってゆきたいと願っています。

世界遺産の富士山とアルプスの山々に囲まれた紅葉の美しい季節の山梨に足を運んでいただきますようお願いし、皆様のご参加をお待ちしています。

(第13回日本小児がん看護学会会長 石川眞里子)

第12回 日本小児がん看護学会学術集会を終えて
学術集会会長 猪下光
(岡山大学大学院保健学研究科看護学分野)

第12回日本小児がん看護学会学術集会は、日本小児血液、がん学会、がんの子どもを守る会とともに、平成26年11月28日(金)～11月30日(日)の3日間、地方都市岡山で、開催させていただきました。

全国の小児がん看護に携わる看護師、医師、医療関連職、家族の方々にご参加いただき、学術集会のメインテーマ『子どもたちの“生きる力”を支える全人的ケア(whole person care)』とは何か、子どもが大人になることを見通した支援とは何かを考え、こらからよりよい看護を実践するためへの学びの場となりました。また日本小児血液、がん学会においては小児がん医療の最新の動向および治療と研究、そして公開シンポジウム、がんの子どもを守る会とのチャリティマラソンと絵画展など、どれも盛況で明日への看護実践への刺激となりました。

小児がん患者の多くは治り、社会人として自立できる時代になりました。スムーズな成人医療への移行を実現するためには、成人医療専門職、学校や地域・行政との連携した支援が必要です。今回、特別講演Ⅰでは『若年成年となった小児がん経験者が成人医療へとスムーズに移行するために』を、国際小児がん学会看護部会長のクリスティナ・バゴット先生に講演していただき、さらに合同シンポジウムでは『小児がん経験者が大人になること』を取り上げ、他職種と連携した継続支援について討論することができました。

特別講演Ⅱでは、『小児がん患者へのケア向上に役立つtechnology(I.T.)』を、バゴット先生に講演をしていたとき、アメリカにおける最新のI.T.アプリ等を利用したケアを学び、さまざまな示唆を得ることができました。近い将来、日本でもそれらを活用した看護ケアが誕生するかも知れません。

看護シンポジウムでは小児がん患者の療養生活上でのさまざまな制限や問題を取り上げ、「生きる力」を支える全人的ケア(whole person care)について議論を深めました。

ワークショップでは『プレパレーション』をとりあげ、外来での採血、MRI検査など、子どものがんばりを引き出す看護師の取り組みについて検討しました。

学術交流セミナーでは『病棟におけるグリーフカンファレンスの試み』の臨床での実践を論文とするまでの執

筆過程を通して、実践知を論文として発信する意義『知識の創造』を共有することができました。

また演題発表では、病気の理解と受容への支援、プレパレーション、食事・栄養・症状ケア、感染予防、移植ケア、エンド・オブ・ライフケア、グリーフケア、家族やきょうだいへの支援など、看護実践の中で得られた示唆を発表し、会場の皆様との討論を通して深めることができ、明日への看護実践への活力源となることができました。

最後になりましたが、発表会場が狭いなど、至らない点が多くあったと思いますが、温かくご協力いただきました皆さんに心より感謝申し上げます。

写真

~~~~~  
<小児がん看護専門性向上研修が開催されました>

2015年1月21日(水)～1月23日(金)、日本看護協会看護研修学校(清瀬)にて「小児がん看護専門性向上研修」が開催されました。

| 内 容     |                                                                        |
|---------|------------------------------------------------------------------------|
| 1/21(水) | 小児がん対策の動向と看護<br>小児がん看護概論<br>小児がんの治療と病態                                 |
| 1/22(木) | 症状マネージメント<br>家族看護<br>小児がん患者家族のトータルケアに関する演習                             |
| 1/23(金) | 小児がん看護と社会資源<br>小児がん看護と多職種連携<br>看護師のためのメンタルヘルス<br>小児がん患者家族のトータルケアに関する演習 |

今年は2回目の開催であり、全国32都道府県から、小児がん看護に従事する看護職62名が参加されました。参加者は半数以上がスタッフナースで、ほか看護師長や主任、看護教員など異なる立場の方や、小児、がんの専

CNSのため知識

小児がんは年間新患患者数に比べ治療施設が多く、医療機関によっては少ない経験の中で医療が行われている可能性があり、必ずしも適切な医療が行われていないことが懸念されています。こうした現状を改善するため、小児がん拠点病院の整備がすすめられ、一昨年、全国15施設が指定をうけました。

小児がんをもつ子どもと家族、そして関わる医療者が得られる情報や資源は成人がんに比べ極端に少ない状況です。小児がん拠点病院の要件のひとつに、院内外の小児がん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備することが明示されています。全国15施設では、「がん相談支援センター」を設置し、多くの施設が小児看護専門看護師や医療ソーシャルワーカーを配置しています。その他、医師、臨床心理士などを配置している施設もあります。

相談室は、それぞれの施設の状況に合わせて役割を果たしており、当院では、社会資源の紹介や治療への不安、日々の困りごとの相談に応じているほか、対応困難な事例に対して病棟看護師をはじめとするスタッフと協働して継続した支援を行っています。生命予後が不良な子どもへ病気をどのように伝えるか、きょうだいへ病気や治療をどう話す、どうサポートするのか、また在宅療養環境をどのように整えるかなど、ご家族の相談に応じながら、病棟や外来の看護師、医師などの多職種とカンファレンスを重ねています。小児がん拠点病院やがん相談支援センターの情報は国立がん研究センターのホームページから得られますので、ご所属の施設、近隣の施設をご活用いただければと思います。

また、小児がん拠点病院には、地域への教育役割を果たすことも求められており、小児がん看護研修を公開している施設も多くあります。是非、ご参加いただき、お互い学びあう機会とし、皆でよりよい小児がん看護を目指して取り組んでいましょう。

兵庫県立こども病院 小児看護専門看護師 中谷扶美

【引用・参考文献】

- ・国立がん研究センター 小児がん情報サービス <http://ganjoho.jp/child/index.html>

門看護師や認定看護師など多彩なメンバーが参加されました。

【2014年度会計報告】

＜収入の部＞

| 項目       | 決算額(円)     | 内訳                          |
|----------|------------|-----------------------------|
| 会員年会費    | 3,990,000  | 2013年度分：44名<br>2014年度分：526名 |
| 事業収入     | 374,089    | 研修会事業                       |
| 寄付金      | 500,080    |                             |
| 雑収入など    | 135,918    | 学会誌販売、受取利息など                |
| 前期繰越収支差額 | 7,925,249  |                             |
| 計        | 12,925,336 |                             |

＜支出の部＞

| 項目  | 決算額(円)    | 内訳                         |
|-----|-----------|----------------------------|
| 事業費 | 2,218,961 | 学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など |
| 管理費 | 1,128,470 | 会議費、通信費、人件費など              |
| 計   | 3,347,431 |                            |

収入 12,925,336

支出 3,347,431

収支 9,577,905

(井上玲子)